

会員による作出花の紹介

山根博充氏 作出花

出羽大山(テワダイセン)



中海の郷(2008年作出)×武蔵川、三英中輪花、早生、出羽の里と似ているが大きさが違い花弁も丸くなく白地に濃紫の脈が入り目立つ、芯は紫、銚は紅紫の立弁。

出羽の春(テワノハル)



中海の郷(2008年作出)×武蔵川、三英中輪花、中生、出羽大山(2010年作出)とは兄弟となる、花弁は白で、芯は濃紅色、弁元はピンクのぼかし、細い濃紅の脈が入る。

富増和彦氏 作出花

「鯨の渚」えりのなぎさ



‘Ocean Mist’の実生。青紫の三英大輪で開花初期は青味が強い。銚は紫色。幅広い花弁がゆったり波打つ。高性で花期は中晩生。

「鯨霞」えりかすみ



「鯨時雨」の実生。白地に僅かに青いかすりが入る三英垂れ咲き。幅広い花弁で襞・縮がある。銚は紫色。花期は中生。

「水涼花」すいりょうか



「水巴」の実生。三英で白地、目の周りのみ青紫が入る。銚は紫糸覆輪。中輪で花弁幅は広く垂れ、全体に丸みがあり、襞・縮がある。

「萱桜」かやざくら



肥後系「綴錦」実生、三英高性藤色細弁薬柱白のF1。第36号で紹介した「早百合」(画像なし)と同じ三英・色彩パター

品種登録係

ンで、藤色含む薄桃色で薬柱が白。本種は「早百合」よりも花弁幅が広い。「早百合」同様、晩生で細い垂れ葉も特徴的。

「篠津江」しのづえ



「栗津の泉」(第36号で紹介)の実生。三英大輪で幅広く、白地に青紫の脈・砂子班、花弁縁が白糸覆輪。銚は紫でやや短め。高性で全体に大柄。花期は早中生。

「藤砂篠津」ふじすなしのづ



「栗津の泉」(第36号で紹介)の実生。三英、白地に藤紫の脈・砂子班。銚は紫まだら。花期は早中生。

「舞篠津」まいしのづ



「栗津の泉」(第36号で紹介)の実生。三英大輪で、地色は青味の藤色で少し脈がある。銚は紫で白糸覆輪。花期は中生。

「明篠津」あけしのづ



「粟津の泉」(第36号で紹介)の実生。三英で角張り気味。地色は赤味の藤色で少し脈がある。鋒は明るい赤紫でやや伸びる。高性で全体に大柄。花期は早中生。

「涼風篠津」すずかぜしのづ



「粟津の泉」(第36号で紹介)の実生。三英大輪で幅広く、うねりがあり、襞・縮がある。白地に浅葱の砂子班、開花につれてほとんど白一色になる。高性で全体に大柄。花期は中生。

「葦の葉隠れ」あしのはがくれ



「粟津の泉」(第36号で紹介)の実生。六英で垂れ気味、薄紫地に紫の脈・砂子班、薬柱が濃い紫一色でやや発達。花期は中生。祖母が「葦の浮舟」であり、似ている。

中野渡裕生氏 作出花

みちのく峠 (ミチノクトオゲ)



ハナショウブからの実生
(2004年作出)

みちのく路 (ミチノクジ)



交配の経過不明 (2004年作出)

みちのく桜 (ミチノクザクラ)



交配の経過不明 (2005年作出)

みちのく娘 (ミチノクムスメ)



ハナショウブからの実生 (2004年作出)

**みちのく小町
(ミチノクコマチ)**



ハナショウブからの実生
(2004年作出)

**みちのくの里
(ミチノクノサト)**



交配の経過不明 (2006年作出)

宇曽利山湖 (ウソリコ)



交配の経過不明 (2007年作出)

天守閣 (テンシュカク)



交配の経過不明 (2007年作出)

青笑 (セイショウ)



交配の経過不明 (2007年作出)
小野小町 (オノノコマチ)



交配の経過不明
(2004年作出)

かぐや姫 (カグヤヒメ)



北野天使の実生?
(2007年作出)

湖畔の宿 (コハンノヤド)



交配の経過不明
(2007年作出)

鶴青 (カクジョウ)



交配の経過不明
(2006年作出)

春の訪 (ハルノオトズレ)



交配の経過不明
(2006年作出)

織女星 (シヨクジョセイ)



出羽の里の実生
(2011年作出)

佐藤 文治氏 作出花

天使A (テンシエイ)



シビリカ系アヤメ 2011年作出、天使系アヤメ実生花「天使」より立弁が大きくなっている。

紫宝 (シホウ)



ハナショウブ 2010年作出、立弁大きく風に強く最も気に入っている花、中大輪
荒城の月 (コウジョウノツキ)



シビリカ系アヤメ 2011年作出、立弁大きい花、大輪
旅人 (タビビト)



ハナショウブ 2011年作出、立弁が大きく風に強い花、中輪

蝦夷霞 (エゾカスミ)



ハナショウブ 2010年作出、スッキリした花形、中輪

雨上がりの街
(アメアガリノマチ)



ハナショウブ 2010 年作出、
上下弁のコントラストがよい花、中輪

夕涼の丘 (ユウスズミノオカ)



ハナショウブ 2010 年作出、
心休まるやさしい感じの花、
中輪

品種の改良・登録・普及のグランドデザインについて

理事長 清水 弘

花菖蒲文化を継承して行くには新品種の育成が欠かせないと云われますが、これには二つの理由があります。最初の理由は花菖蒲が種子ではなく同一個体の株分け(クローン)により維持されるためです。繁殖力の強い新品種として生まれても長年に亘る株分けで徐々に増殖力が低下する現象(クローンの老化)があることです。古花の宇宙はこのような例で、栽培家は『花は咲けども翌年の葉芽が出来ない。』と嘆きます。寿命の尽きる寸前に最後の花を着け、せめて最後に種子の形で子孫でも残そうかということなのでしょう。また、新型の病害が発生した場合は大規模に、一気に抵抗性のない品種群が絶えたりします。二つ目の理由は人々の好みが変わって行くことです。高度成長期の人々は肥後系品種の豊満さに惹かれたものの、経済状況が厳しい現代では小輪で緊張感の

ある長井系品種が好まれます。花菖蒲品種はその時代に生きる人々の心を映す一種の鏡と云うわけで、販売苗の取引にもそういった意識が反映してくるようです。

このように花菖蒲は、既存品種の栽培の繰り返しだけでは自ずと品種数が減って来ます。増え易く時代の要求する美を持つ新品種を世に出し、その中から時を超えても猶、美しいと感じられる品種を残すということが花菖蒲文化を守るということだと思えます。この理想の実現には、協会による長期戦略が必要となっています。以下に示した全体構想(グランドデザイン)は、品種改良・保存に関する協会の取り組むべき道筋を示したものです。

最後に美花を見た時の会員の感動が、新花を生む原動力となることを申し添えます。

《全体構想》

本事業の全体構想については次の 5 段階の行程を想定し、各段階での着手状況やその問題点を書きました。また現在の協会規模(会員数)では、第 2 段階の予算化や人員確保は困難と判断して、第 4 段階での実生家自身による普及販売を別途、進めることにしました。

第 1 段階 実生改良の推進

- ・ベテラン育種家による交配種子の頒布：未着手(課題：提供者と世話人の確保)
- ・会報上での実生花発表：会報 24 号より開始(課題：特に問題なし)

第 2 段階 試作圃場の設置と実生花評価

- ・未着手(課題：会員数減少の現状では実施困難)

第 3 段階 品種登録

- ・申請制度の確立：会報 24 号にて発表・開始(課題：申請料金支払いのメリットなし)
- ・新花登録：「花菖蒲品種登録一覧表」を会報 37 号に掲載開始(課題：登録基準の確認)
- ・花菖蒲品種総目録の発行：2005 年版が最後(課題：新発行予算の確保)

第 4 段階 新花の普及

- ・会員作出品種の普及販売：2011 年度要項作成、2012 年度より事業開始予定(次頁参照)

第 5 段階 国際登録

- ・現在まで数品種を登録(課題：他の根茎アイリス登録を如何にするか)